

地域に対する誇りと愛情をもつ児童の育成

～社会科 第4学年 地域素材の活用を通して～

伊達市立保原小学校 教諭 石川 淳

1 研究の趣旨

第4学年の社会科の学習指導要領では「地域社会の社会的事象」を学習内容として取り上げるが、これをもとに、「自分たちの住んでいる地域社会を総合的に理解できるようにする」とともに、「地域社会の一員としての自覚をもち、地域社会に対する誇りと愛情を育てていくこと」が求められている。福島の復興を願い、そして復興を担う心豊かな児童を育てるため、福島や地元保原に対する誇りと愛情を育てていくことがどうしても必要であり、特に社会科においてそうした指導が求められている。

しかし、実際は、指導に適した地域の資料が整っていないのが現状であり、児童の学習意欲や地域に対する興味関心の育成に結び付かず、ねらいを十分に達成できないことが課題である。

そこで、以下に掲げる児童の姿を目指して教師側で系統立て、段階を踏んだ資料を作成して指導に生かし、育てなければならない力を確実に身に付けさせていきたいと考える。

- ・ 地域理解に広がりが見られている姿
- ・ 地域に対する意識が高まっている姿
- ・ 地域を総合的にとらえる姿

2 研究の概要

研究では、以下に述べるような仮説を設定し、本主題に迫った。

社会科第4学年の地域素材を扱う学習において、PDCAの学習サイクルで以下の手立てを講じれば、地域に対する誇りと愛情をもった児童を育てることができるだろう。

- Plan : ① 単元構想の工夫
② 教科書を補う自作教材の作成
- Do : ① 単元を貫く学習活動をもとにした言語活動の充実
② ねらいを明確にした資料提示の工夫
- Check : ① 自作ワークテストによる評価の工夫
- Action : ① 都道府県カルタを活用した補充の工夫

3 成果と今後の課題

(1) 主な成果

- ① 単元構想を工夫し、PDCAサイクルのもと、年間を通して児童に付けたい力を意図した指導を進めることで、児童の社会科に対する関心の高まりが見られた。1時間1時間の授業を大切にしてきたことが児童の意識の高まりにつながったと感じる。
- ② 児童の身近な地域を取り上げた自作教材を用いることにより、地域を肯定的に受け止め、地域に対する大きな愛情の育ちにつなげることができた。地域教材を系統立て、計画的に指導することで、児童が地域を深く、多面的にとらえることができるようになった。特に、学習を通して先人の働きや努力を知る中で児童の意識が「町が好き」「保原はすごい」となり、町を誇りに思い、愛する気持ちへと変容した。「ここに生まれてよかった」という感想をもつことができたことは本研究の大きな成果としてとらえられる。

(2) 課題

- ① 地域への思いが高まり、育ててきたものを、その先、どのように育て、伸ばしていけばよいか。先々まで見据えた視点をもち、「社会参画」という意味での実践力を育てる系統的な指導を進めていくことが今後必要である。